

著者紹介

浅井 知子

平成12年国際基督教大学教養学部語学卒業。同年(財)国際情報協力センター入社。調査研究部研究員。主に、アジアとのIT分野における協力事業、IT関連の調査事業に従事。担当分野は中国、フィリピン、ネパール、スリランカのIT。

天野 富夫(正会員)

1984年慶應義塾大学大学院計測工学修士課程修了。日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所に入所。文字認識、文書画像処理の研究開発を行う。2000年より同社サービス事業部に異動。WebアプリケーションやXML関連の開発、システムインテグレーションに従事。XMLコンソーシアム エバンジェリスト。

安藤 広志

1983年京都大学理学部(物理学)卒業。1992年MIT脳・認知科学部博士課程修了。Ph.D.(計算神経科学)。現在、ATR人間情報科学研究部主任研究員。視覚情報処理、認知脳科学、計算神経科学の研究に従事。

今瀬 真(正会員)

大阪大学大学院情報科学研究科教授。1977年同大学院修士。日本電信電話(株)情報流通プラットフォーム総合研究所研究部長を経て、2002年より現職。一貫してネットワークの高度化の研究に従事。1986年工学博士(大阪大学)。IEEE、電子情報通信学会各会員。E-mail:imase@ist.osaka-u.ac.jp

梅村 香織

平成13年青山学院大学院国際政治経済研究科国際政治学修士課程修了。同年(財)国際情報協力センター入社。調査研究部研究員。主にアジアとのIT分野における協力事業、IT関連の調査事業に従事。担当分野はモンゴル、ベトナム、インドネシアのIT。

占部浩一郎

1982年通商産業省入省。2000~04年6月まで、CICCシンガポール(JETROシンガポール)に赴任。アジアに対するIT協力、IT動向の調査などを担当。

浦本 直彦(正会員)

1990年九州大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻修了。同年、日本アイ・ビー・エム(株)入社。東京基礎研究所にて、情報統合に関する研究開発に従事している。2000年より、国立情報学研究所実証研究センター客員助教授。博士(工学)。

大久保公策

1981年東京大学工学部合成化学卒業。1985年大阪大学医学部医学科卒業。同大細胞工学センターで分子生物学を専攻し医学博士。同助手助教授を経て2001年より産業技術総合研究所発現頻度解析チームリーダー。2002年九州大学生態防御医学研究所教授。

大崎 博之

大阪大学大学院情報科学研究科助教授。1995年同大学院修士。1997年同大学院博士。同大学院基礎工学研究科、同大情報処理教育センター、同大サイバーメディアセンターを経て、2002年より現職。超高速ネットワークのトラフィック制御に関する研究に従事。1997年博士(工学)(大阪大学)。IEEE、電子情報通信学会各会員。E-mail:oosaki@ist.osaka-u.ac.jp

大田 朋子

1996年東京工業大学大学院博士後期課程生命理工学系研究科修了。博士(工学)。国立がんセンター研究所、東京大学医科学研究所を経

て、現在は同大学院情報学環にて科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業(CREST)研究員。

大坪 正史

慶應義塾大学医学部分子生物学教室助手、医学博士。(株)三和化学研究所研究員を経て、2000年慶應義塾大学医学部大学院博士課程分子生物学専攻修了。同年より現職。主たる研究テーマは「癌細胞の細胞内シグナル伝達機構解明」と「遺伝子変異データベースの構築」。日本分子生物学会、日本生化学会、日本バイオインフォマティクス学会各会員。E-mail:ohtsubo@dmb.med.keio.ac.jp

大原 茂之(正会員)

1971年東海大学大学院修士課程修了。同年同大工学部助手等を経て同大電子情報学部教授。工学博士。組込みシステムの開発支援技術の研究に従事。情報処理技術者試験委員。IPA/SECリサーチフェロー。電子情報通信学会、IEEE各会員。

狩野 正行(正会員)

情報システムのアクセシビリティやUI設計にかかわる技術支援を担当。プロジェクトの現場でアクセシビリティ啓発、設計/実装支援などに携わる。2004年JISA情報アクセシビリティ部会委員。

小池 麻子

京都大学理学部修士課程卒業。理学博士。日立製作所中央研究所主任研究員。東京大学大学院情報理工学系研究科客員助教授兼任。2003年より高木研究室に長期派遣中。

部 亜紀子(正会員)

(株)NTTデータ技術開発本部勤務。2002年東京理科大学大学院理工学研究科数学専攻修了。同年(株)NTTデータ入社。データマイニング、医療統計解析等の研究開発に従事。電子情報通信学会会員。

島田 孝宣

電子政府・電子自治体の基盤となる情報システムのアクセシビリティ・ユーザビリティ分野に関連した開発支援とコンサルティングに携わる。JIS X 8341-3の策定作業に従事し、2004年JISA情報アクセシビリティ部会委員。

清水 信義

慶應義塾大学医学部分子生物学教室教授。名古屋大学大学院理学研究科博士課程分子生物学専攻(1970年理学博士)。1971年に渡米、カリフォルニア大学・エール大学研究員、アリゾナ大学分子細胞生物学科教授を経て、1983年から現職。主たる研究テーマは「ゲノム解読を基盤とした新たなヒト分子生物学の展開」。学会理事・評議員:分子生物学会、癌学会、細胞生物学会、人類遺伝学会、生化学会、Human Genome Variation Society、遺伝子診療学会(副理事長)。E-mail:shimizu@dmb.med.keio.ac.jp

平 博順(正会員)

1994年東京大学理学部卒業。1996年同大学院修士課程修了。同年日本電信電話(株)入社。同社コミュニケーション科学基礎研究所研究員。博士(工学)。主として、機械学習、バイオインフォマティクス、自然言語処理の研究に従事。言語処理学会、ACL、日本バイオインフォマティクス学会各会員。

高木 利久(正会員)

1976年東京大学工学部卒業。工学博士。九州大学を経て1994年東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター教授。2003年より同大学院新領域創成科学研究科情報生命科学専攻

教授。

建石 由佳(正会員)

1989年東京大学大学院理学系研究科博士課程単位取得退学。(株)日本アイ・ビー・エム入社。1997年同社退社。学術振興会研究員。2001年より科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業(CREST)研究員。理学博士。

田中 哲朗(正会員)

1965年生。1987年東京大学工学部計数工学科卒業。1992年同大学院博士課程修了。博士(工学)。東京大学工学部助手、同大教育用計算機センター助教授を経て、1999年より同大情報基盤センター助教授。

田中 康博(正会員)

(株)NTTデータ技術開発本部勤務。1981年北海道大学大学院工学研究科修士課程修了。工学博士。バイオインフォマティクスの研究開発に従事。IEEE、ACM、ISCB、電子情報通信学会、日本バイオインフォマティクス学会各会員。

辻井 潤一(正会員)

京都大学大学院工学博士。1971年同大工学部電気工学科卒業。1973年同大学院修士課程修了。同年より、同大電気工学第2教室助手、助教授を経て、1988年から英国UMIST教授。同大計算言語学センター所長などを経て、1995年より東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻教授。組織変更により現在は同大学院情報学環教授。また1981~82年フランスCNRS招聘研究員。

当麻 喜弘(正会員)

1961年東京工業大学大学院博士課程修了。工学博士。同大で33年間勤務後、1994年同大名誉教授、東京電機大学教授。Fault Toleranceの研究に従事。電子情報通信学会著述賞、大川出版賞、同学会フェロー、IEEE LIFE Fellow、IFIP Silver Core、紫綬褒章、本会功績賞等を受賞。

中村 桂子

JT生命誌研究館館長。東京大学理学部化学科卒業。同大学院生物化学課程修了。理学博士。国立予防衛生研究所、三菱化成生命科学研究所、早稲田大学を経て1993年生命誌研究館副館長。2002年より現職。

夏目 徹

4大学1企業2国研、合計11研究室を渡り歩いた、流しのタンパク質科学者。2001年より産業技術総合研究所。2004年より東京大学分子細胞生物学研究所分子情報・制御部門教授(客員)、九州大学生体防御医学研究所教授(客員)。

二宮 恵(正会員)

1999年東京女子大学文理学部数理学科卒業。2001年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程修了。同年(株)アイアイジェイメディアコミュニケーションズ入社。

久光 徹(正会員)

1986年東京大学数学科修士課程修了。同年(株)日立製作所基礎研究所。1999年同社中央研究所。自然言語処理およびそのライフサイエンス分野への応用の研究に従事。1995年英国Sheffield大学客員研究員。

日紫喜光良

産業技術総合研究所生物情報解析研究センター発現頻度解析チーム主任研究員。1993年東京大学医学部医学科卒業。1998年同大学院(医療情報経済学)修了。医学テキストからの情報抽出をテーマに博士(医学)取得。日本学

術振興会特別研究員、信州大学病院医療情報部助手を経て2001年より現職。

平賀 譲 (正会員)

1983年東京大学理学系研究科博士課程(情報科学)中退。現在筑波大学図書館情報メディア研究科教授。認知過程の計算モデル化、音楽情報科学、ゲームプログラミング等の研究に従事。ACM、日本認知科学会、日本音楽知覚認知学会等各会員。

藤崎哲之助

工学博士。1970年東京大学計数工学科卒業。1972年同大工学系大学院卒業。2000年コロンビア大学MBA卒業。1972年日本IBMサイエンティフィック・センター入社。1987年米国IBM T. J. ワトソン研究所入社。2002年よりコラボ・テクノロジー(株)代表取締役社長。
E-mail:tetsu.fujisaki@attglobal.net

前田 英作 (正会員)

1984年東京大学理学部卒業。1986年同大学院理学系研究科修士課程修了。同年、日本電信電話(株)入社。現在、NTTコミュニケーション科学基礎研究所メディア情報研究部アシスタントインテリジェンス研究グループリーダー。工学博士。1995～96年ケンブリッジ大学

(英国)客員研究員。主としてパターン認識、統計的機械学習、生物情報処理の研究に従事。IEEE、電子情報通信学会、日本バイオインフォマティクス学会各会員。

松澤 裕史 (正会員)

1993年早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年日本アイ・ピー・エム(株)入社。東京基礎研究所に配属。データマイニング、テキストマイニング、バイオインフォマティクスの研究などに従事。人工知能学会、日本ソフトウェア科学会各会員。

松田 和浩

1985年北海道大学大学院電子工学科修士。同年日本電信電話(株)入社。LSI設計/設計支援CAD、超高速プロトコル処理、企業向けネットワークサービスの研究開発に従事。IEEE、電子情報通信学会各会員。
E-mail:matsuda.kazuhiro@lab.ntt.co.jp

箕浦 大祐 (正会員)

1995年東京工業大学大学院修士課程修了。同年NTT入社。持株会社研究所にて多地点映像音声コミュニケーションシステムの研究開発に従事した後、NTT東日本にて前記研究成果を商品化、インターネット会議システムとして

販売する企業内起業を牽引。現在、NTT東日本から英国ケンブリッジ大学大学院MBAコースに派遣中。博士(工学)。

養島 伸生

浜松医科大学量子医学研究センター教授。名古屋大学大学院理学研究科博士課程分子生物学専攻(1983年理学博士)、(株)三菱化成生命化学研究所特別研究員、米国アリゾナ大学分子細胞生物学科リサーチアソシエイト、慶應義塾大学助手(医学部分子生物学教室)、同講師、同助教授を経て現在に至る。主たる研究テーマは「ゲノム情報を基盤とした光関連疾患の発症機作」、「眼の発生関連遺伝子と22番染色体遺伝子の網羅的同定」、「疾患遺伝子変異・多型データベースの構築」。日本分子生物学会、日本遺伝子診療学会、日本バイオインフォマティクス学会各会員。

E-mail:mino@hama-med.ac.jp

矢野 直明

サイバーリテラシー研究所代表。編集者(ジャーナリスト)。朝日新聞出版局で「ASAHIパソコン」、「DOORS」などの雑誌を創刊。著書「インターネット術語集I、II」、「サイバーリテラシー」、「情報編集の技術」など。

書評・会議レポート募集のお知らせ

情報処理学会会誌編集委員会では、会誌「情報処理」に掲載する書評、および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています。

1. 募集対象 次の2種類の記事について、原稿を募集します。

- a) 書 評 : 過去2年間に出版された、本学会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評。
- b) 会議レポート: 情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など、時事性が高く、本学会員に広く知らせる価値のある話題。

2. 応募資格

原則として本学会員に限ります。

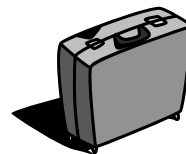
3. 応募の手続き

- 1) 表 題: 書評の場合は、著者名、書名、ページ数、発行所、発行年、価格、ISBNを書く。
会議レポートは、見出しを書く。書評、会議レポートの別を左肩に書く。
- 2) 評者名(会議レポートの場合は筆者名)・所属・評者連絡先(住所、E-mail、Faxなど)の記載を忘れずに。
- 3) 本 文: 書評、会議レポートとも2,100字前後で書く。
- 4) (必要であれば)参考文献、付録、図、表をつける。
詳しくは「原稿執筆案内」(<http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/shippitsu/kaishi.html>)を参照してください。

4. 原稿の取扱い

投稿された原稿は会誌編集委員会で審査し、採否を決定します。採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

5. 照会/応募先 (社)情報処理学会 会誌編集部門 E-mail:editj@ipsj.or.jp



平成 17 年度会誌モニタ募集のお知らせ

会誌編集委員会

会誌「情報処理」をよりよくするために編集委員一同努力を続けておりますが、会誌についての会員の方々の評価や希望をうかがい、今後の改善に役立てるために、モニタ制度を設けております。

関心のある方はぜひふるってご応募ください。

応募の資格 本会員で、モニタの役割を積極的に果たしていただける方。

モニタの役割 会誌毎号の本誌巻末の所定用紙または学会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) から、毎月アンケートに回答する。

- 記事に対する評価
- 記事に対する感想・意見
- 記事テーマの提案
- そのほか全般的な意見・提案など

注) 会誌の記事をすべて読むといったことは必ずしも必要ではありません。自分の立場や問題意識、得意とする分野などを基準とした「独断と偏見による」自由な意見を期待します。

期 間 原則として 1 年間とします。

対 象 号 会誌 46 巻 4 号～ 47 巻 3 号

謝 礼 貴重なご意見をいただいた方には薄謝を贈呈します。

募集人員 特に定めませんが、応募者数によっては当委員会で調整させていただくことがあります。

応募締切 平成 17 年 2 月 28 日 (月) 必着 * 申込書を Fax するか、または E-mail でお申し込みください。

申込/照会先 情報処理学会 会誌編集部門 (モニタ係)

平成 17 年度会誌モニタ申込書

宛先：情報処理学会 会誌編集部門 (モニタ係)

E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

氏 名

会員番号 ()

住 所 〒

所 属

E-mail:

Tel () -

Fax () -

年 齢 (歳)

業種：(a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (e) 学生 (f) その他

職種：(a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務 (f) 会社経営・役員・管理職
(g) 教官 (大学・大学院) (h) 教職員 (i) 学生 (j) その他

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、11月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。

まず、11月号の特集「電子社会を推進する暗号技術」については、多くのご感想とご意見をいただきました。

■共通鍵暗号や公開鍵暗号といったこと、暗号の安全性が数学的な問題解決の困難によるものであるといったことくらいは知っていたが、今回の暗号の特集を読んで、現在の暗号技術に関してより広くそしてより深い知識を得ることができた。今回の特集を読んで、改めて暗号技術と数学とのつながりがとても強いということを感じた。またその一方で、暗号技術では法律、標準仕様、システムなど社会におけるさまざまな仕組みといったものも重要であるということを感じた。(片山聡一郎)

■普段何気なく用いているセキュリティ技術を紹介している特集に対して、非常に興味を持った。(亀井靖高)

■今回は時間があまりなく、軽く読むくらいで終わりました。暗号技術に興味を持っていたので、また改めて読み直したいと思いました。(田中 光)

■暗号の応用では、鍵の生成や、暗号化モードの取り扱いなどが十分に理解されているとはいえず、WEPの脆弱性も、そのあたりの知識不足が原因であったと認識しています。暗号を応用するにあたって必要な知識等についての啓蒙記事を期待します。(新井俊一)

■大変参考になったが、数式を多用する記事は専門外の人間にとっても理解しづらい。また、一部の最新動向の記事に、いくつかの理論があり、一方のみ(しかも理論だけ)しか取り上げないとは、チュートリアル的な学会誌の特集記事としてはふさわしくないように思える。(匿名希望)

■今回特集となった暗号技術は、自分の業務と関連することもあって、個々の記事にも参考になる記事が多かったのですが、全体の「序章」となる「編集にあたって：現代暗号の構図」はそれらの記事の位置関係が分かりやすい構図でまとめられ、大変すばらしいと感じました。今後の特集でも、各特集記事の位置関係を俯瞰できるこのような「序章」を設けてくださることを期待しています。(匿名希望)

■今月の特集の暗号技術について興味を持って読んで。利用者からすると暗号を使うのは余計な手間となるわけで、まったく意識しないで使うのが望ましい。しかしながら、暗号は完全でないので、利用する情報の価値によって、暗号の利用コストや破られた時のリスクを考慮して利用する暗号を選ぶ必要があり、利用者も暗号について理解することが必要になってきている。そのため、今回のような

特集の内容については、一般の人にももっと知ってもらう必要があるのだろうなと思った。(匿名希望)

■セキュリティ技術の研究が高度化して安全性が高まる一方で、セキュリティ技術の普及はまだまだという感じが強い。特に、一般の利用者から見れば技術が高度になればなるほど、その安全性に疑問を抱きやすいのではないだろうか。安心できる電子社会の実現のために安全性の向上は無論重要であるが、利用者にとっての利便性や簡易さといった要素も含めて、これらセキュリティ技術の適用を検討していくべきだと考える。(匿名希望)

■特集では多くの話題を取り上げているので、ひとつひとつが難しくなっただと思います。もう少し話題を絞り込んだ方が良いと思いました。(匿名希望)

コラム「20世紀の名著名論」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■Dijkstraの“Goto Statements Considered Harmful”は、私も昔これに関連する資料を調べながらまとめたものを、学内の広報誌に載せたことがあり、ことさらに懐かしく思えました。とにかく、このタイトルのせいで、X Considered Harmfulが続出したのは、編集系独白にもあるとおりですが、挙句の果てには、Dijkstra Considered Harmfulなどというものがあつたという話さえあります。ところで、あの題名を付けたのは、Dijkstra自身ではなかったということをご存知でしょうか。Dijkstraは、“A case against the goto statement”というタイトルのもとに論文を投稿したところ、編集者の、公表を早めるためにという意向で投書欄に回され、その編集者の自身の発表で、あの新しいタイトルが付けられたということです。この話*には、その編集者が、Niklaus Wirthだったというオチも付いています。(江副文臣)

*Edsger W.Dijkstra: EWD1308: What Led to "Notes on Structured Programming", in Manfred Broy, Ernst Denert(Eds.) "Software Pioneers-Contribution to Software Engineering", Springer Verlag Heiderberg, 2002, pp.341-346.

■いまやプログラミングでgoto文を使わないことが当たり前となっているが、背景にこのような論文・エピソードがあつたということを知ることができて面白かった。(片山聡一郎)

■ソフトウェア工学に関する話題を扱った講演でこの論文“Goto Statements Considered Harmful”を知りました。その時は漠然と「goto文は使用しない方が良いんだ」と思ったものでしたが、“Code Complete”やデバイス関連の本を読んでみてgoto文が有効に使われていることを知り、その時からコーディング作法に関する書籍を読むときには本当にそれが正しいか自分で吟味してから採用するようになりました。(匿名希望)

コラム「アジアIT事情：インドにおけるIT事情」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■現地語化の問題は、指摘されている通りです。しかし、「コンピュータ」、「ネットワーク」、「情報処理」といった基本的な語でさえ、現地語にはそれに対応する語がなく、英語の発音をそのまま借用しているのが現状です。たとえば、もっと基本的な「空港」という語の場合、

ヒンディー語ではhawaaii addaa(「空の基地」の意)よりも、英語の音を当て、air portと表現する方が自然です。(水野光朗)

■インドに対する見方が少し変わりました。アウトソーシングの巨大な基地であるという認識をしていましたが、インド国内においてのデジタルディバイドがあり、多くの国民がITの恩恵を得ていない状況であることが分かりました。これにはカースト制度が、一因にあるのかもしれませんが、それでも、やはりインドは中国とならび発展の著しく、21世紀の国であると思います。(匿名希望)

コラム「インターネット生活向上委員会: Online Meeting」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■最近インスタント・メッセージャーを利用している。今回の記事にもあるように、使用している感じとしてはメールをよりリアルな会話に近づけた感じであり、携帯メールと似たところがあり、ちょっとした用事を済ませるには非常に便利だと感じる点が多いのだが、その一方でメールと同じように、直接だとはいにくいことを簡単に伝えることができってしまうという問題点も併せ持っており、手軽に送ってしまうため、より危険であるように感じる。コミュニケーションツールとしての用法をわきまえた上での使用が大切だと感じる。(片山聡一郎)

■インスタント・メッセージャーが便利であることは、事実ですが、仕事の打合せや連絡は、直接会って話したほうが、手っ取り早い上に、確実であると思います。(水野光朗)

その他の記事に関しては、以下のようなご感想をお寄せいただきました。

■解説「デジタルシネマの標準化とその最新動向」について興味深く読ませていただきました。デジタル化により映画製作の手法が変化していることにより、今後その技術を活用した面白いコンテンツが登場していくであろうこと、また、どの劇場でも品質の変わらない映像が楽しめるようになることを期待しています。(菅原宏之)

■解説「大規模災害に対する減災情報システム(前編)」の記事を大変興味深く拝見させていただきました。今年は豪雨による水害や中越地震による災害が続けて起こりましたので、特に関心のある記事です。このような大規模災害はいつやってくるか正確に予測すること

はほとんど不可能ですので、ご指摘のように災害が起こった後、いかに被害を最小限に食い止めるかが重要です。このような対策にネットワーク等の情報処理技術が役に立つことは喜ばしいことと思います。しかし今年の経験から見れば、いくらこのような情報伝達設備が整っても、現状では避難対象となる住民に正確な情報がなかなかうまく伝わりません。やはり最終的には人手に頼るしかないのでしょうか。(匿名希望)

■コラム「地域社会とIT: 中部国際空港のIT技術」は、愛知県在住ということもあり、とても興味を持って読むことができました。(水野光朗)

■コラム「日本のIT事情」は気になる内容。テクノロジー自体に善悪はないにしろ、テクノロジーを使う存在自体がどうも変。今年は激動の1年? それとも激悪の1年?(雪野 清)

■「おひいすらん」の「どれだけの人がその小説を読んでいるだろうか」にドキッ。「暗号」の企画はタイムリーだし、著者もそれぞれ分かりやすく伝えようとしているように(誌面から)見えるのだが、ゆっくり読む時間がない。(匿名希望)

会誌の内容や今後とりあげて欲しいテーマに関して、以下のご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にさせていただきます。

■今号は内容が大変充実しており、楽しく読みました。理論から実装まで、幅広い内容があるのも良かったです。毎回このようなレベルであれば素晴らしいと思います。激励したく、はじめてアンケートを送付する次第です。(新井俊一)

■量子コンピュータ、量子計算、量子暗号について特集を組んで欲しい。(匿名希望)

■プログラミングにおけるアルゴリズムなどについての最近の動向についての記事を希望する。(片山聡一郎)

■オブジェクト指向分析・設計に関する特集を組んでいただきたい。(亀井靖高)

会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会Webページでも受け付けております。今後よりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

【本欄担当 大城正典, 松下光範/書評・ニュース分野】

📝 ご意見をお寄せください!!

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

- ・記事に対する感想、意見
 - ・記事テーマの提案
 - ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
 - ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言
- なお、「道しるべ」については

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/michishirube/michishirube.html>>
でこれからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を進呈いたします。掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

応募先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
情報処理学会 会誌編集部門 E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375
<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq4602.html>

皆様からいただいた会誌へのご意見は下記 Web ページにも掲載しております。
<URL : <http://www.ipsj.or.jp/07editj/dokusha/dokusha.html>> (読者からの声)



IPSJ カレンダー

開催日	名称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
	東海支部「平成16年度学生論文奨励賞」論文募集 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/tokahome.html	3月10日(木)		
	論文誌「ユビキタスITSとモバイルアプリケーション」 特集論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/05-E.html	3月31日(木)		
	論文誌「ブロードバンド・ユビキタス・ネットワークとその応用」5月9日(月) 特集論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/06-D.html			
	論文誌「ユビキタス社会におけるコラボレーションサービス」 特集論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/06-C.html	5月20日(金)		
2月18日(金)	第59回音楽情報科学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/MUS59.html		当日のみ	東京大学情報基盤センター
2月18日(金)～ 2月19日(土)	第78回コンピュータと教育研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/CE78.html		当日のみ	内田洋行CANVAS (東京都中央区)
2月22日(火)～ 2月23日(水)	第98回システムソフトウェアとオペレーティング・システム 研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/OS98.html	12月17日(金)	当日のみ	香川大学
2月22日(火)～ 2月24日(木)	東海支部シンポジウム「名古屋市工業研究所技術融合化 シンポジウム～コア技術で挑むものづくり～」開催案内 http://www.nmiri.city.nagoya.jp/nmiri/events/h17/sympo_h16.pdf		2月16日(水) 参加費無料	名古屋市工業研究所
2月23日(水)	北陸支部研究講演会「メタ認知的学習プロセスによる 熟達過程の支援」開催案内 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			金沢大学工学部 秀峯会館
2月28日(月)～ 3月1日(火)	インタラクティブ2005 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/S-HI2005.html		2月14日(月) 事前登録	学術総合センター 一橋記念講堂
2月28日(月)～ 3月1日(火)	JABEE技術者教育プログラム自主研修会 http://www.ipsj.or.jp/12kyoiku/acre/T-Acc2004-2.html	2月18日(金)	定員になり次第	機械振興会館 (東京都港区)
3月1日(火)	第13回ゲーム情報学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/GI13.html	12月24日(金)	当日のみ	東京大学教養学部
3月1日(火)～ 3月2日(水)	第3回「ネットワーク生態系と空間デザイン」 http://www.jaist.ac.jp/~yhayashi/3rd_webology.html	1月17日(月)		東京工科大学
3月2日(水)～ 3月4日(金)	第67回全国大会 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/67kai/index.html		2月10日(木)	電気通信大学
3月3日(木)～ 3月4日(金)	第148回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/CVIM148.html	12月25日(土)	当日のみ	千葉大学
3月7日(月)～ 3月9日(水)	第154回計算機アーキテクチャ・第101回ハイパフォーマンス コンピューティング合同研究発表会 (HOKKE-2005) http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/ARC154HPC101.html	1月5日(水)	当日のみ	北海道大学 学術交流会館 小講堂
3月9日(水)	北陸支部研究講演会「ユビキタスコンピューティング概要と セキュリティ」開催案内 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			富山県立大学工学部 講義棟
3月10日(木)～ 3月11日(金)	第166回自然言語処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/NL166.html		当日のみ	名古屋大学 ベンチャー ビジネスラボラトリ
3月10日(木)～ 3月11日(金)	第20回高度交通システム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/ITS20.html	12月20日(月)	当日のみ	国際電気通信基礎技術 研究所
3月10日(木)～ 3月11日(金)	第48回オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会 http://www.tom.comm.waseda.ac.jp/~avm/society48.html	1月28日(金)	当日のみ	沖繩セルラー電話
3月11日(金)	東海支部講演会「新しいビジネスをもたらすロボット用ソフト ウェア技術-アーキテクチャ、画像処理、音声認識などの ロボットの起案ソフトウェア技術の最新動向-」開催案内 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/tokahome.html		2月25日(金) 参加費無料	刈谷市産業振興センター
3月14日(月)～ 3月16日(水)	第139回知能と複雑系研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/ICS139.html	1月14日(金)	当日のみ	北海道 定山溪ビューホテル
3月15日(火)～ 3月16日(水)	第91回情報システムと社会環境研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/IS91.html	12月17日(金)	当日のみ	専修大学 神田キャンパス
3月17日(木)	第100回アルゴリズム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/AL100.html		当日のみ	東芝科学館 ABホール
3月17日(木)～ 3月18日(金)	第32回モバイルコンピューティングとユビキタス通信・ 第7回ユビキタスコンピューティングシステム合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/MBL32UBI7.html	1月14日(金)	当日のみ	玉川大学
3月17日(木)～ 3月18日(金)	第55回グループウェアとネットワークサービス研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/GN55.html	1月17日(月)	当日のみ	北陸先端科学技術大学院 院大学
3月17日(木)～ 3月18日(金)	第53回プログラミング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/PRO53.html	1月17日(月)	当日のみ	東京工業大学 大岡山キャンパス
3月17日(木)～ 3月18日(金)	第147回ソフトウェア工学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/SE147.html	2月7日(月)	当日のみ	東洋大学白山キャンパス
3月18日(金)	第36回分散システム/インターネット運用技術研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/DSM36.html	12月17日(金)	当日のみ	東京農工大学
3月19日(土)	第27回電子化知的財産・社会基盤研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/EIP27.html	1月14日(金)	当日のみ	大阪市立大学 梅田サテライト
3月22日(火)～ 3月23日(水)	第122回マルチメディア通信と分散処理・ 第28回コンピュータセキュリティ合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/DPS122CSEC28.html	1月14日(金)	当日のみ	大阪大学 吹田キャンパス
3月23日(水)	第12回システム評価研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/EVA12.html	1月17日(月)	当日のみ	福岡システムLSI総合 開発センター
3月25日(金)	第78回情報学基礎・ 第49回デジタル・ドキュメント合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/FI78DD49.html	1月25日(火)	当日のみ	化学会館会議室 (御茶ノ水)

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
4月4日(月)～ 4月6日(水)	The 7th International Symposium on Autonomous Decentralized Systems (ISADS2005) http://isads05.swjtu.edu.cn/index.htm	9月15日(水)		Chengdu, China
5月18日(水)～ 5月20日(金)	先進的計算基盤システムシンポジウム SACSIS 2005 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/SACSIS2005.html	1月17日(月)		つくば国際会議場
5月27日(金)	第92回情報システムと社会環境研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/IS92.html	2月25日(金)	当日のみ	(社)情報サービス産 業協会会議室
5月30日(月)～ 6月1日(水)	20th IFIP International Information Security Conference (SEC2005) http://www.sec2005.org/	11月15日(月)		幕張メッセ
5月31日(火)	第155回計算機アーキテクチャ研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/ARC155.html	3月31日(木)	当日のみ	産業技術総合研究所 臨海副都心センター
7月6日(水)～ 7月8日(金)	マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2005) シンポジウム http://www.dicom.org/	3月15日(火)		ホテル志戸平 (岩手県花巻南温泉)
8月24日(水)～ 8月26日(金)	DA シンポジウム 2005 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/S-DA2005.html	5月9日(月)		遠鉄ホテルエンパ イア
9月7日(水)～ 9月9日(金)	FIT2005 第4回情報科学技術フォーラム http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2005/			中央大学 後楽園キャンパス

Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報

[トピックス]

- 1月20日 JABEE 技術者教育プログラム自主研修会参加申込受付中
- 1月18日 学会サーバ上の電子図書館データ削除のお知らせ
- 1月12日 オンライン英文論文誌 IPSJ Digital Courier を刊行しました

[学会からのお知らせ]

- 1月19日 論文誌 (ジャーナル) の論文査読状況を更新しました
- 1月12日 平成 17 年度会誌モニタ募集
- 1月11日 「ユビキタス ITS とモバイルアプリケーション」特集の論文募集, 「ブロードバンド・ユビキタス・ネットワークとその応用」
特集の論文募集, 「ユビキタス社会におけるコラボレーションサービス」特集の論文募集
- 12月17日 論文誌 (ジャーナル) の論文査読状況を更新しました

人材募集 (有料会告)



申込方法: 任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書宛先、Web掲載の有無などを記載し、掲載希望原稿〔募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先〕を添えて下記の申込先へE-mail、Fax または郵送にてお申し込みください。
*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号(15日発行)に掲載します。

掲載料金: 国公立教育機関、国公立研究機関 21,000円(税込)
賛助会員(企業) 31,500円(〃)
賛助会員以外の企業 52,500円(〃)
*本誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金4,000円で同一内容を本会Webページに掲載できます。

申込先: 情報処理学会 会誌編集部(有料会告係) E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375
*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。
*人材募集広告は会誌と同時にオーム社発行月刊誌「コンピュータ&ネットワークLAN」にも掲載されます(料金の追加はありません)。ただしオーム社側の掲載については字数などの関係から大幅に編集されることをご了承ください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■群馬工業高等専門学校電子情報工学科

募集人員 教授または助教授または講師 1名
専門分野 電子情報工学
担当科目 電子情報関係科目および卒業研究・専攻科特別研究指導
応募資格 採用時において博士の学位を有し、55歳位までの方、高等専門学校における教育・学生指導に熱意と理解があり、研究と両立できる方、企業での実務経験を有することが望ましい
着任時期 平成17年4月1日
提出書類 履歴書(市販の書式を用いること)、研究業績リスト(レフりー付き論文・国際会議発表・著書・その他に分類のこと)、主要論文別刷(5編以内、コピー可)、これまでの研究概要(A4用紙1000字程度)、着任後の教育・研究に関する抱負(A4用紙2000字程度)、推薦書
応募締切 平成17年2月21日(必着)
送付先 〒371-8530群馬県前橋市鳥羽町580 群馬工業高等専門学校 庶務課人事係
E-mail:jinj@jim.gunma-ct.ac.jp Tel(027)254-9010(ダイヤルイン) Fax(027)254-9022
「電子情報工学科 教員応募書類」と朱書き簡易書留 *応募書類は原則として返却いたしません
照会先 電子情報工学科 主任教授 佐々木信之 E-mail:sasaki@ice.gunma-ct.ac.jp Tel(027)254-9246(ダイヤルイン)
その他 【選考方法】第一次:書類選考
第二次:第一次選考合格者に対して面接審査実施(日時は、後日一次選考合格者に直接お知らせします)
詳細は<http://www.gunma-ct.ac.jp/>を参照

■香川大学工学部信頼性情報システム工学科

募集人員 下記の各分野において教授または助教授のいずれか 1名 *ただし、募集枠は、教授 1名、助教授 1名、計2名
所属 信頼性工学講座
専門分野 (a)システム信頼性工学分野 (b)システム開発管理分野
応募資格 (a)博士の学位を有し、システムの信頼性設計、性能設計、リスク解析、応用統計解析、確率過程論などにおいて、職種にふさわしい研究業績を有すること。また、応用統計解析、信頼性工学、信頼性数理、リスク評価、システム信頼性工学などの当該講義を担当可能で、かつ大学院博士後期課程で研究指導できる方 (b)博士の学位を有し、システムの開発管理技術、空間情報システム(GIS)、グループウェアシステム開発、エンジニアリング関連の電子商取引、ソフトコンピューティングのシステム感性設計・信頼性設計への応用などにおいて、職種にふさわしい研究業績を有すること。また、確率・統計、数理シミュレーション、信頼性設計などの当該講義を担当可能で、かつ大学院博士後期課程で研究指導できる方
着任時期 平成17年5月1日以降のできるだけ早い時期
提出書類 履歴書、研究業績リスト、主要論文別刷(コピー可)およびその概要、研究活動報告書(A4用紙2枚以内)、本学部における教育研究の抱負など(A4用紙2枚以内)、推薦書(教授:国内2通・国外2通/計4通以上、助教授:国内2通・国外1通/計3通以上)
応募締切 平成17年2月25日(必着)
送付先 〒761-0396香川県高松市林町2217番20 香川大学 工学部長 石川 浩 「教員応募書類在中」と朱書き書留
照会先 工学部庶務係 E-mail:shomu@eng.kagawa-u.ac.jp Tel(087)864-2008 Fax(087)864-2032
その他 詳細は<http://www.eng.kagawa-u.ac.jp/>を参照

■広島国際学院大学情報学部情報工学科

募集人員 教授または助教授または講師 1名
 専門分野 ネットワーク, コンピュータアーキテクチャ, コンピュータソフトウェア
 担当科目 ネットワーク論, プログラム設計論, 情報工学実験, ソフトウェア工学など
 応募資格 55歳以下で博士の学位を有する方, 学生教育, 指導に熱心な方
 着任時期 平成17年4月1日以降なるべく早い時期
 提出書類 履歴書, 研究業績リスト(著書, 学術論文, 国際会議, その他), 主要論文別刷(最近5年以内のもの), 教育に関する抱負(1000字程度)
 応募締切 平成17年2月28日(必着)
 照会先 〒739-0321 広島県広島市安芸区中野6-20-1 広島国際学院大学 情報学部情報工学科 主任教授 青井秀樹
 E-mail:aoi@hkg.ac.jp Tel(082)820-2645 「教員応募書類在中」と朱書き書留

■神奈川歯科大学先端 HPD プロジェクト研究所

神奈川歯科大学において全身健康に果たす歯科学の役割の研究を推進するための「先端HPD (health promotion dentistry)プロジェクト研究所」を設立するにあたり, 特別研究員(博士研究員)を以下の要領で公募いたします

募集人員 特別研究員(博士研究員) 4名
 応募資格 fMRI, PETなどを用いた脳機能イメージングによる認知, 記憶, 情動, 判断などに関連する高次脳活動の解析(高齢者痴呆, ストレス, 肥満の予防医学的対応を目指した研究)に携わり, 学位取得者で研究を意欲的, 積極的に推進できる方で, 英文筆頭論文1編以上の方が望ましい. 年齢は問わない
 着任時期 平成17年4月(予定)
 提出書類 履歴書, 論文リスト, これまでの研究概要(1000字以内)
 応募締切 平成17年3月20日
 照会先 〒238-8580 神奈川県横須賀市82番地 神奈川歯科大学 生体機能学講座生理学分野 小野塚 実
 E-mail:onozuka@kdcnet.ac.jp Tel(046)822-9067
 その他 【任期】: 1年契約で4年間まで 【給与】: 本学規定による

■(株)豊田中央研究所

募集人員 (1)正社員 2名 (2)正社員 1名
 専門分野 (1)計算機科学, ソフトウェア工学, 情報通信 (2)電気通信工学, 情報処理工学
 応募資格 (1)上記専門分野の知識と研究開発経験を有し, 自動車分野に関心の深い修士以上の方 (2)交通流, 通信ネットワークのいずれかのシミュレーション経験を有する修士以上の方
 着任時期 平成17年4月1日以降なるべく早い時期
 提出書類 履歴書, 職務経歴(研究実績), 論文リスト, 主要論文別刷など(コピー可) *応募職種・職務内容を明記の上, お送りください
 応募締切 平成17年3月31日(必着)
 送付先/照会先 〒480-1192 愛知県愛知郡長久手町大字長湫字横道41-1 (株)豊田中央研究所 総務部人事課 鈴木・羽田
 E-mail:saiyo@mosk.tytlabs.co.jp Tel(0561)63-6509 Fax(0561)63-5744
 その他 詳細は<http://www.tytlabs.co.jp/>を参照

■名古屋大学大学院情報科学研究科

募集人員 助教授 1名
 所属 計算機数理科学専攻計算論講座
 専門分野 計算機科学(アルゴリズム論, 計算量理論)
 担当科目 大学院科目: 近似アルゴリズム特論など
 学部科目: 工学部電気系学科の計算機科学関連の講義
 応募資格 博士の学位を有する40歳位までの年齢の方
 着任時期 平成17年10月1日(予定)
 提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 主要論文別刷(5編以内, コピー可), これまでの研究の概要と今後の研究計画(A4用紙2枚程度), 教育に関する抱負(A4用紙1枚程度), 応募者について照会できる方2名の氏名と連絡先, その他選考に役立つと思われる参考資料(学会および社会活動, 教育活動など)
 応募締切 平成17年3月31日(必着)
 送付先/照会先 〒464-8603 愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院情報科学研究科(1B電子情報館)
 計算機数理科学専攻長 平田富夫 E-mail:hirata@is.nagoya-u.ac.jp Tel(052)789-2725
 その他 詳細は<http://www.is.nagoya-u.ac.jp/>を参照

■上智大学理工学部電気・電子工学科

募集人員 教授、助教授、講師のいずれか 1名(専任)
 専門分野 生体情報工学、次世代センシング工学、生体医工学、生体の知的情報処理と制御のモデリング、ロボット用センサ、生体機能計測システム、生体情報検出、生体のイメージング、画像診断システム、ヒューマンインタフェース、遺伝子解析におけるデータ処理システム、福祉工学、マルチセンサ・ネットワークなどの分野
 担当科目 電磁気学、電磁気学演習など(学部)、生体情報工学、次世代センシング工学など(大学院)
 応募資格 博士の学位を有し、年齢50歳位までの方
 着任時期 平成18年4月1日
 提出書類 履歴書、研究業績リスト、研究業績の概要[※]、教育に関する抱負[※]、研究に対する抱負[※]、主要論文別刷(5編程度)、推薦書、応募者について照会できる2名の方の氏名と連絡先 [※]はすべてA4用紙1枚程度
 応募締切 平成17年5月31日(必着)
 送付先/照会先 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学理工学部電気・電子工学科 学科長 川中 彰
 E-mail:kawanaka@akira.ee.sophia.ac.jp Tel(03)3238-3337 Fax (03)3238-3321 「教員採用応募書類」と朱書き書留
^{*}応募書類は原則として返却いたしません
 その他 詳細は<http://www.ee.sophia.ac.jp/koubo.html>を参照

■東京農工大学共生科学技術研究部

募集人員 教授 1名
 所属 電子メディア工学講座回路システム分野
 専門分野 デジタル・システム、回路システムに関連する分野
 担当科目 論理・電子回路、回路理論、数値解析、プログラミングなど(予定)
 応募資格 博士の学位を有し、50歳程度までで、実システム開発の経験が望ましい、学部および大学院で理論と実践にわたって研究・教育を指導できる方
 着任時期 平成17年10月1日
 提出書類 履歴書、研究業績リスト、主要論文別刷(5編程度、コピー可)、これまでの研究経過と着任後の研究計画[※]、教育・研究に関する抱負[※](教育歴を含む) [※]A4用紙2枚以内
 応募締切 平成17年5月31日(必着)
 送付先/照会先 〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16 東京農工大学 共生科学技術研究部 関根優年
 E-mail:sekine@sekine-lab.ei.tuat.ac.jp Tel(042)388-7444 「教員応募書類在中」と朱書き(簡易)書留
^{*}応募書類は返却いたしません
 その他 詳細は<http://www.tuat.ac.jp/koubo/>を参照



読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約100名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、毎号巻末に掲載しております所定の用紙またはWebページ(<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enquete.html>)をお使いいただき、奮って事務局までお寄せください。

(社)情報処理学会 会誌編集部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax (03)3518-8375



FIT2005 第4回情報科学技術フォーラム 論文発表募集案内

2005年3月14日(月)より登録申込み/投稿 受付開始予定
会期: 2005年9月7日(水)~9日(金)
会場: 中央大学 後楽園キャンパス (東京都文京区)

査読付き論文及び一般論文の論文発表を募集します
○論文ページ数: 2~4ページ ○講演時間: 20分
※3ページ目以降はエクストラページ料金(3,000円/ページ)が必要です

情報処理学会(IPSJ)と電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ(ISS)並びにヒューマンコミュニケーションングループ(HCG)は、2002年から合同で毎年秋季に、「情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)」を開催しており、2005年9月には第4回目を中央大学 後楽園キャンパスで開催します。本フォーラムは、IPSJ全国大会とISSソサイエティ大会の流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流、などを実現してきており、前回のFIT2004では836件の論文発表が行われました。皆様の研究成果発表の場として、標記のとおり論文発表を募集致しますので奮って御応募下さい。

査読付き論文

査読付き論文は、FIT設立に伴い新たに導入された企画です。採録論文は「情報科学技術レターズ(Information Technology Letters)」として独立した講演論文集に掲載します。査読者や読者に研究内容が十分に伝わるように、最大4ページに緩和された論文ページ数(3ページ目以降はエクストラページ料金(3,000円/ページ)が必要です)を活用して下さい。採録論文の中から船井ベストペーパー賞を3件選定し、受賞された方には船井情報科学振興財団から賞金20万円が贈呈されます。またFIT2005論文賞として7件程度を選定し、賞金5万円を贈呈します。皆様、是非ともチャレンジして下さい。査読付き論文に投稿されて不採録となった場合には、一般論文として扱います。なお、若干の分野では査読付き論文の募集を行わないかもしれません。査読付き論文の募集を行う分野については、公式サイトをご覧ください。FIT情報科学技術レターズに掲載された論文は、学会論文誌に掲載されているレター、テクニカルノート、ショートペーパー、研究速報等と同じ位置付けとなります。

一般論文

ページ数・講演時間は、査読付き論文と同じですが、査読を行わない分、投稿〆切りが約2ヶ月遅くなります。2005年12月31日現在で33歳未満の講演者(査読付き論文および一般論文)の中から、特に優れた発表をされた20名程度に、ヤングリサーチャー賞を授与し賞金3万円を贈呈します。

申込み主要日程(予定)

<p>■査読付き論文</p> <p>登録申込/投稿受付開始: 平成17年3月14日(月)</p> <p>登録申込〆切り/査読用原稿の投稿〆切り: 平成17年4月28日(木)</p> <p>査読の採否結果通知: 平成17年6月20日(月)</p> <p>カメラレディ投稿〆切り: 平成17年7月8日(金)</p>	<p>■一般論文</p> <p>登録申込/投稿受付開始: 平成17年3月14日(月)</p> <p>登録申込〆切り: 平成17年6月3日(金)</p> <p>カメラレディ投稿〆切り: 平成17年7月8日(金)</p>
---	--

※登録申込と原稿投稿は、すべてWebを通じて行って頂きます。下記のFIT2005公式サイトからお願い致します。
※登録申込、原稿投稿要領の詳細は、決定次第 FIT2005公式サイトでお知らせ致します。

問合せ先

101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館 4F
社団法人 情報処理学会 事業部門 TEL. 03-3518-8373 FAX. 03-3518-8375 e-mail: jigyo@ipsj.or.jp

FIT2005公式サイト <http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2005/>

有
料
会
告

ICDE 2005 TOKYO

International Conference on
Data Engineering

The 21st International Conference on Data Engineering (ICDE 2005)

April 5-8, 2005, 学術総合センターにて

Sponsored by

The IEEE Computer Society

日本データベース学会

情報処理学会

電子情報通信学会



<http://icde2005.is.tsukuba.ac.jp/> <http://icde2005.naist.jp/> (mirror)

参加募集

ICDE 2005 ハイライト

- PostgreSQLの生みの親であり、オブジェクトリレーショナルDBMSの概念の提唱でも名高いMITのMichael Stonebraker教授の基調講演
同教授は2005年度IEEE John von Neumann Medalを受賞されました
- System Rの時代からIBMで活躍されているPat Selinger氏、そして日本からは日立のICタグに関する基調講演
- 500件以上の投稿の中から厳選された100件の研究論文の発表(33件のポスター発表含む)
- 16件のインダストリアル論文発表と20件のデモ
- XQueryに関する最新技術動向や、ストリームデータ処理技術、Webサービス技術など、最先端の技術トピックについて、各分野の主要な研究者からのアドバンス・テクノロジー・セミナー
- さまざまなトピックに関する併設ワークショップ: 本会議に前後する形で開催いたします。
- データ工学関連企業からの先進的ソリューション展示

ICDE 国際会議とは

データ工学は、社会を支える基盤となる情報インフラストラクチャの構築と運用、日々拡大を続けるインターネットにおける情報の管理・流通、モバイル・ユビキタスコンピューティングなどの先進的応用分野の支援、大規模データベースやWebからの知識発見とその利用など、今日の多様なコンピューティング環境における情報システムの設計・開発・運用に関する工学的な技術と方法論を扱う研究領域です。この「データ工学」をその名に冠したデータ工学国際会議(International Conference on Data Engineering, ICDE 2005)が2005年4月に東京にて開催されます。

ICDE国際会議は、IEEE Computer Societyの主催による、2005年で第21回を迎える国際会議です。ICDE国際会議では、例年、非常に高レベルで最新のデータ工学に関する技術発表が行われます。会議では、研究論文発表のみならず、著名な研究者等による基調講演、企業からのインダストリアル論文、現在ホットなトピックに関し議論を行うパネル討論、各分野のエキスパートを招いたアドバンス・テクノロジー・セミナー、企業や大学によるデモンストレーション、先進的ないくつかの研究分野を取り上げて開催されるワークショップなど、多彩なイベントが催されます。データ工学の領域に関する研究者・技術者の皆様方の会議へのご参加をお待ちしております。

基調講演

- Michael Stonebraker (MIT): "One Size Fits All": An Idea Whose Time Has Come and Gone
- Pat Selinger (IBM Research/Vice President): Top Five Data Challenges for the Next Decade
- Yoji Taniguchi (Hitachi, Ltd.): IC Tag Based Traceability: System and Solutions

パネル討論

- Paradigm Shift to New DBMS Architectures: Research Issues and Market Needs: Sang K. Cha (Seoul National University and Transact In Memory, Inc.)
- Is There Anything New about Business Process Intelligence?: Malu Castellanos and Fabio Casati (Hewlett-Packard Lab)

アドバンス・テクノロジー・セミナー

- XQuery Midflight: Emerging Database-Oriented Paradigms and a Classification of Research Advances (Ioana Manolescu and Yannis Papakonstantinou)
- Rank-Aware Query Processing and Optimization (Inab F. Ilyas and Walid G. Aref)
- Data Stream Query Processing (Nick Koudas and Divesh Srivastava)
- Online Mining Data Streams: Problems, Applications, Techniques and Progress (Haixun Wang, Jian Pei, and Philip S. Yu)
- Web Service Coordination and Emerging Standards (Fabio Casati and Gustavo Alonso)
- Database Architectures for New Hardware (Anastassia Ailamaki)
- Data Mining Techniques for Microarray Datasets (Lei Liu, Jiong Yang, and Anthony K. H. Tung)

ワークショップ

- International Workshop on Biomedical Data Engineering (BMDE 2005), Apr. 3-4, 2005. <http://www.db.is.kyushu-u.ac.jp/bmde2005/>
- International Workshop on Data Engineering Issues in E-Commerce (DEEC 2005), Apr. 9, 2005. <http://www.cebt.re.kr/DEEC2005/>
- International Workshop on Managing Data for Emerging Multimedia Applications (EMMA 2005), Apr. 8-9, 2005. <http://www.mmdb.ece.ucsb.edu/~echang/ieee-emma05.html>
- 1st IEEE International Workshop on Networking Meets Databases (NetDB 2005), Apr. 8-9, 2005. <http://infolab.usc.edu/netdb05/index.html>
- International Workshop on Privacy Data Management (PDM 2005), Apr. 8-9, 2005. <http://www.db.soc.i.kyoto-u.ac.jp/PDM2005/>
- International Workshop on Realworld Multimedia Corpora in Mobile Environment (RWCinME 2005), Apr. 8-9, 2005. <http://www.sp.m.is.nagoya-u.ac.jp/RWCinME/>
- International Workshop on Self-Managing Database Systems (SMDB 2005), Apr. 8-9, 2005. <http://icde2005.aist-nara.ac.jp/smdb2005/>
- International Workshop on Ubiquitous Data Management (UDM 2005), Apr. 4, 2005. <http://www.dl.kuis.kyoto-u.ac.jp/UDM2005/>
- International Workshop on Challenges in Web Information Retrieval and Integration (WIRI 2005), Apr. 8-9, 2005. <http://research.nii.ac.jp/WIRI/>
- 2nd International Workshop on XML Schema and Data Management (XSDM 2005), Apr. 8-9, 2005. <http://web.umar.edu/~madrilas/XSDM'05-ICDE.htm>

参加について

- 登録料(本会議のみ:3月1日まで/3月2日以降)
 - ◆ 会員:5万円/6万円
 - ◆ 非会員:6万5千円/7万8千円
 - ◆ 学生:1万5千円/2万2千円
- 会員価格は、IEEE/IEEE CS、日本データベース学会、情報処理学会、電子情報通信学会のいずれかの会員に適用されます。
- ワークショップ参加費など詳細は上記ホームページを参照して下さい。

会員皆様への「情報処理学会倫理綱領」遵守のお願い

最近、残念なことに、本会の著作権規程に違反するなど学会員としてのモラルを欠くような事態が見受けられます。本会では、学会員の倫理規範である「情報処理学会倫理綱領」を以下の通り設けておりますが、会員皆様におかれましては、この機会に改めてご一読いただき、学会員としての規範を遵守くださるようお願いいたします。

情報処理学会著作権規程は次のページをご覧ください。

「情報処理学会倫理綱領」

前文

我々情報処理学会会員は、情報処理技術が国境を越えて社会に対して強くかつ広い影響力を持つことを認識し、情報処理技術が社会に貢献し公益に寄与することを願い、情報処理技術の研究、開発および利用にあたっては、適用される法令とともに、次の行動規範を遵守する。

1. 社会人として

- 1.1 他者の生命、安全、財産を侵害しない。
- 1.2 他者の人格とプライバシーを尊重する。
- 1.3 他者の知的財産権と知的成果を尊重する。
- 1.4 情報システムや通信ネットワークの運用規則を遵守する。
- 1.5 社会における文化の多様性に配慮する。

2. 専門家として

- 2.1 たえず専門能力の向上に努め、業務においては最善を尽くす。
- 2.2 事実やデータを尊重する。
- 2.3 情報処理技術がもたらす社会やユーザへの影響とリスクについて配慮する。
- 2.4 依頼者との契約や合意を尊重し、依頼者の秘匿情報を守る。

3. 組織責任者として

- 3.1 情報システムの開発と運用によって影響を受けるすべての人々の要求に応じ、その尊厳を損なわないように配慮する。
- 3.2 情報システムの相互接続について、管理方針の異なる情報システムの存在することを認め、その接続がいかなる人々の人格をも侵害しないように配慮する。
- 3.3 情報システムの開発と運用について、資源の正当かつ適切な利用のための規則を作成し、その実施に責任を持つ。
- 3.4 情報処理技術の原則、制約、リスクについて、自己が属する組織の構成員が学ぶ機会を設ける。

注

本綱領は必ずしも会員個人が直面するすべての場面に適用できるとは限らず、研究領域における他の倫理規範との矛盾が生じることや、個々の場面においてどの条項に準拠すべきであるか不明確（具体的な行動に対して相互の条項が矛盾する場合を含む。）であることもあり得る。したがって、具体的な場面における準拠条項の選択や優先度等の判断は、会員個人の責任に委ねられるものとする。

付記

1. 本綱領は平成8年5月20日より施行する。
2. 本綱領の解釈および見直しについては、必要に応じて委員会を設置する。

情報処理学会著作権規程

平成 12 年 4 月 1 日制定

平成 13 年 6 月 20 日改訂

平成 16 年 11 月 30 日改訂

情報処理学会は、研究論文等の印刷、配布又は Web 送信など、投稿者及び他の会員や社会の期待に応えるサービスを、情報処理学会の名声と権威にふさわしい質を維持しながら提供する必要がある。しかも、このサービスは将来予想される新技術や会員/社会のニーズの変化に柔軟に対応しつつ、安全かつ継続して提供できねばならない。

そのためには、情報処理学会が自己の名義の下で公表する著作物の著作権に関する取り扱いを明確にする必要がある。この規程ではかかる著作物の著作権を情報処理学会に譲渡してもらうことを原則とするものの、それによって著者ができるだけ不便を被らないよう配慮する。

(この規程の目的)

第 1 条 この規程は、本学会に投稿される論文等（本学会発行の出版物に投稿される論文、解説記事等及び本学会に投稿される研究報告、シンポジウム・全国大会・本学会が主催又は共催する国際会議などの予稿、プロシーディングス原稿等を含む。以下あわせて論文等という。）に関する著作者・投稿者（以下あわせて「著作者」という。）の著作権の取り扱いに関して取り決めるものである。

(著作権の帰属)

第 2 条 本学会に投稿される論文等に関する国内外の一切の著作権（日本国著作権法第 21 条から第 28 条までに規定するすべての権利*を含む。以下同じ。）は本学会に最終原稿が投稿された時点から原則として本学会に帰属する。

2. 特別な事情により前項の原則が適用できない場合、著作者は投稿時にその旨を投稿窓口あてに文書にて申し出るものとする。その場合の著作権の扱いについては著作者と本学会との間で協議の上措置する。

3. 本学会の出版物に投稿された論文等が本学会の出版物に掲載されないことが決定された場合、本学会は当該論文等の著作権を著作者に返還する。

(不行使特約)

第 3 条 著作者は、以下各号に該当する場合、本学会と本学会が許諾する者に対して、著作者人格権を行使しないものとする。

- (1) 翻訳及びこれに伴う改変
- (2) 電子的配布に伴う改変
- (3) アブストラクトのみ抽出して利用
- (4) 前各号の他の利用に伴う改変

(第三者への利用許諾)

第 4 条 第三者から著作権の利用許諾要請があった場合、本学会は本学会理事会において審議し、適当と認められたものについて要請に応ずることができる。また、利用許諾する権利の運用を理事会の承認を得て外部機関に委託することができる。

2. 前項の措置によって第三者から本学会に対価の支払いがあった場合には、本学会会計に繰り入れ学会活動に有効に活用する。

(著作者の権利)

第 5 条 本学会が著作権を有する論文等の著作物を著作者自身がこの規程に従い利用することにに対し、本学会はこれに異議申し立て、もしくは妨げをすることをしない。

2. 著作者が著作物を利用しようとする場合、著作者は本学会に事前に申し出を行った上、本学会の指示に従うとともに利用された複製物あるいは著作物中に本学会の出版物にかかる出典を明記することとする。ただし、元の論文等を 25% 以上変更した場合には、この限りではない。また、3 項、5 項にかかわる利用に関しては事前に申し出ることなく利用できる。

3. 論文等のうち、本学会が査読の上論文誌（ジャーナル及びトランザクション。以下同じ。）への採録を決定して最終原稿を受領したものと及び会誌記事については、著作者は他の学会に投稿することとはできない。なお、論文等のうち、研究報告、シンポジウム予稿、全国大会予稿、国際会議予稿、及びプロシーディングス原稿（以下「研究報告等」という。）については、研究の途中成果とみなし、著作者が当該研究報告等を研究の最終成果物とするため他学会等へ投稿する（以下「論文化投稿」という。）ことに対して、本学会は本学会が著作権を保有していることを理由に著作者および他学会等に対し異議申し立てを行わない。

4. 著作者が論文化投稿をするにあたり、著作権の返還を本学会に申請した場合、本学会は、当該著作者の申請が正当な理由によるも

のと認めるときは、当該研究報告等の著作権を著作者に返還する。ただし、当該著作者は、当該研究報告等に関し、本学会の運営上必要となる事項（第三者への複製許諾、学会が作成する Web サイト、CD-ROM 等への論文掲載等）を本学会が継続して実施できるよう、本学会に対して当該研究報告等にかかる著作権の利用許諾を行うものとする。なお、当該利用許諾については投稿先の学会等に事前に通知するものとし、本学会へ利用許諾を行ったことにより投稿先の学会等との間に紛争が生じた場合は、本学会は当該著作者と協力して、解決を図るものとする。

5. 著作者は、投稿した論文等について本学会の出版物発行前後にかかわらず、いつでも著作者個人の Web サイト（著作者所属組織のサイトを含む。以下同じ。）において自ら創作した著作物を掲載することができる。ただし、掲載に際して「情報処理学会倫理綱領」に則ること、ならびに本学会の出版物にかかる出典（当該出版物が発行された場合）及び利用上の注意事項**を明記しなければならない。

(例外的取り扱い)

第 6 条 他の学会等との共催行事に投稿される論文等の著作権について別段の取り決めがあるときは、前各条にかかわらず、当該取り決めがこの規程に優先して適用されるものとする。

(著作権侵害および紛争処理)

第 7 条 本学会が著作権を有する論文等に対して第三者による著作権侵害（あるいは侵害の疑い）があった場合、本学会と著作者が対応について協議し、解決を図るものとする。

2. 本学会に投稿された論文等が第三者の著作権その他の権利及び利益の侵害問題を生じさせた場合、当該論文等の著作者が一切の責任を負う。

(発効期日)

第 8 条 この規程は平成 12 年 4 月 1 日に遡って有効とする。なお、平成 12 年 4 月 1 日より前に投稿された論文等の著作権についても、投稿者から別段の申し出があり、本学会が当該申し出について正当な事由があると認められた場合を除き、この規程に従い取り扱うものとする。

*以下の権利を含む：

複製権（第 21 条）、上演権及び演奏権（第 22 条）、上映権（第 22 条の 2）、公衆送信権等（第 23 条）、口述権（第 24 条）、展示権（第 25 条）、頒布権（第 26 条）、譲渡権（第 26 条の 2）、貸与権（第 26 条の 3）、翻訳権、翻案権等（第 27 条）、二次的著作物の利用に関する原著者の権利（第 28 条）。

**利用上の注意事項の例：

ここに掲載した著作物の利用に関する注意
本著作物の著作権は（社）情報処理学会に帰属します。本著作物は著作権者である情報処理学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては「著作権法」ならびに「情報処理学会倫理綱領」に従うことをお願いいたします。

Notice for the use of this material

The copyright of this material is retained by the Information Processing Society of Japan (IPJS). This material is published on this web site with the agreement of the author (s) and the IPJS. Please be complied with Copyright Law of Japan and the Code of Ethics of the IPJS if any users wish to reproduce, make derivative work, distribute or make available to the public any part or whole thereof.

All Rights Reserved, Copyright (C) Information Processing Society of Japan.

Comments are welcome. Mail to address editj@ipjs.or.jp, please.

前回（2003年2月）のおふいすらんでは、「私のゴルフ奮闘記」ということで私が当時ゴルフをやり始めたばかりの事を書いて、最後に次回はゴルフコースデビュー編ということで締めくくりました。

今回はその続編ということで、前回のものを読み返してみたのですが、完璧にゴルフを甘く見ていたのがよく分かりました。前回からおおよそ2年の月日が流れ、あれから何度かコースに出ました。確かコースデビューの時は140くらい叩いてしまったと思います（よく数えたなー）。その後何度か一進一退をくりかえしながら、今はだいたい10Xくらいでまわれるようになりました。今年の目標は100を切るのですが、これが今の私の実力ではとても難しいです。たいてい前半、後半のどちらかで崩れてしまうので、いつも後一歩というところで涙をのんでいます。

何度かコースに出て、いろいろと人から教わったり、雑誌を読んだりしましたが、ゴルフはスイング自身もさることながらメンタルがものすごく大切なスポーツであることを痛感してい

ます。メンタルの乱れが即スコアに出てきてしまうので、いかに平常心を保って淡々とプレーをできるかが課題です。上達には、技術面、メンタル面ともにまだまだ道のりは遠いですが、次のおふいすらん執筆の時には、100を切ったと書けるようにがんばって練習しようと思ってます。

追伸

それにしてもソニーオープンでは、丸山選手が優勝まであと一歩だったのに惜しかった。

（鮎川 修／事業部門）



■ 各種問合せ先 ■

（社）情報処理学会（本部） ※支部所在地等詳細はリンクされている各支部ページでご参照ください。
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F Fax(03)3518-8375 <http://www.ipsj.or.jp/>

担当	E-mail	Tel (ダイヤルイン)	取り扱い内容
■ 会員サービス部門			
会員	mem@ipsj.or.jp	03-3518-8370	入会、会費、変更連絡、退会、在会証明、会員証、会費等口座振替、海外からの送金
■ 会誌編集部門			
会誌編集	editj@ipsj.or.jp	03-3518-8371	会誌「情報処理」の掲載内容、広告掲載、転載許可、出版、著作権
■ 研究部門			
論文誌	edit@ipsj.or.jp	03-3518-8372	論文誌（ジャーナル）の編集・査読
調査研究／教育	sig@ipsj.or.jp		研究会登録、研究発表会、シンポジウム、研究グループ、論文誌（トランザクション）
■ 事業部門			
事業	jigyo@ipsj.or.jp	03-3518-8373	全国大会、FIT、連続セミナー、プログラミング・シンポジウム
国際	intl@ipsj.or.jp		国際会議、IFIP委員会
■ 管理部門			
総務	somu@ipsj.or.jp	03-3518-8374	理事会、支部、役員選挙、名誉会員
経理	keiri@ipsj.or.jp		出納、送金連絡
システム企画	sys@ipsj.or.jp		システム企画、電子化委員会、電子図書館、IPSJメールニュース
図書	tosho@ipsj.or.jp		出版物購入
■ 情報規格調査会			
規格部	standards@itscj.ipsj.or.jp		標準化フォーラム 〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 Tel (03)3431-2808 Fax (03)3431-6493 http://www.itscj.ipsj.or.jp/

ご意見をお寄せください！

【3月10日頃までにお出してください】

宛先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれからでも送付できます)

<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq4602.html> Fax(03)3518-8375 E-mail:editj@ipsj.or.jp
(E-mailで送信される場合は、10-1-aのようにコードでお答えください)

[コード]

1. ご氏名
2. ご所属 Tel. () -
3. E-mail:
4. 業種：(a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (大学・高専など)
(e) 学生 (f) その他 4-
5. 職種：(a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教官/教員 (大学・大学院) (h) 教職員 (小・中・高校・高専など)
(i) 学生 (j) その他 5-
6. 年齢：(a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 6-
7. 性別：(a) 男性 (b) 女性 7-
8. あなたはモニタですか？：(a) はい (b) いいえ 8-
9. あなたのご意見は「会員の広場」(会誌および Web) に掲載される場合があります。その場合：
(a) 実名可 (氏名のみ掲載) (b) 匿名希望 9-
10. 今月号 (2005年2月号) の記事についてのあなたの評価をご記入ください。
[a...大変参考になった b...よい c...普通, どちらとも言えない d...悪い e...読んでいない]

特集：ポストゲノム時代に高まるバイオ自然言語処理への期待：バイオ自然言語処理最新事情

語る科学へ向けて.....	10-1-
遺伝子変異データベース構築のための情報収集と抽出の現状	10-2-
大規模プロテオミクスからバイオ NLP に望むこと	10-3-
生命科学文献からの知識抽出と辞書構築.....	10-4-
バイオ NLP のためのコーパスと各種リソースの現状	10-5-
ゲノムデータの機械解釈.....	10-6-
バイオ自然言語処理のための機械学習技術	10-7-
ポストゲノム時代のテキストマイニングミドルウェア.....	10-8-
連想統合による医学・生物学知識の活用ソリューション	10-9-
バイオ医療情報からの疾患関連因子抽出システムについて.....	10-10-
組込みソフト産業の実態と開発の課題：日本の組込みシステム産業と技術者育成の課題	10-11-
サイバーサイエティを実現する仮想網技術の動向.....	10-12-
アクセシビリティの現状と展望.....	10-13-
Web サービス：Web サービスのパターンとベストプラクティス	10-14-
情報技術と教育：変わるもの、変わってはいけないもの	10-15-
欧州のIT技術とビジネス：ケンブリッジ大学の技術とビジネスへの適用	10-16-
アメリカITまわりの話題：ユーティリティ・コンピューティング	10-17-
アジアIT事情：モンゴル、ネパール、スリランカのIT事情	10-18-
日本のIT事情：情報の周辺・周辺の情報(5) オンライン情報発信における日韓の差は双方向性の有無	10-19-
20世紀の名著名論：David Marr: Vision: A Computational Investigation into the Human Representation and Processing of Visual Information	10-20-
20世紀の名著名論：Terry Winograd & Fernando Flores: Understanding Computers and Cognition	10-21-
インターネット生活向上委員会：ヒントを与えてくれる検索エンジン	10-22-
プログラム・ブロンナード：怪物を閉じ込める	10-23-

11. 特に興味を持ってお読みになった記事とその感想をお書きください。

12. 著者への質問、今後取り上げて欲しいテーマ、また「道しるべ」に取り上げてほしいテーマなどありましたらお書きください。

言語の変遷と生物進化との類似性は20世紀前半にはすでに指摘されていた。しかし、本特集で解説したような形で「生物学」と「言語処理」とが絡み合うことが予見されたのはごく最近のことではないだろうか。「生物学」と「言語処理」は一見肌合いのまったく異なる2つの学問分野であるが、数学を代表とする理学の中での生物学とコンピュータサイエンスの中における自然言語処理とは、その位置取りにおいて似ていなくもない。すなわち、ともに論理だけでは料理できない何か、泥臭い何か、研究者を呻吟させるとともに、同時

に魅了もしているのである。その労苦と感動を少しでも共有することで、両分野の相互理解を前進させることができるのではないだろうか。本特集がその一助となれば幸いである。

あひみでの後の心にくらぶれば昔は物を思はざりけり
(権中納言敦忠)

(前田英作, 高木利久/本特集ゲストエディタ)

次号 (3月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」 バイオインフォマティクス

バイオインフォマティクス概説/バイオインフォマティクス研究者スキル/システム生物学/バイオ情報データベース/バイオスタティスティクス/医療と医学におけるバイオインフォマティクス/バイオとナノテクの融合/ポストゲノム時代のシーケンス解析

解説

動き始めた財務会計データ標準 XBRL 解説 高橋規生

電力安定供給のための情報通信技術 芹澤善積

連載 Web サービス/プログラム・プロムナード/組込みソフト産業の実態と開発の課題

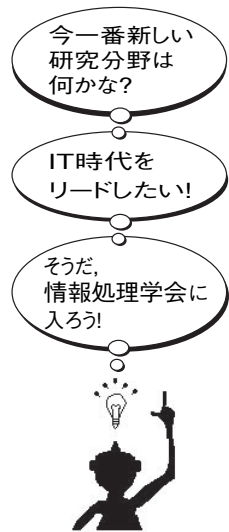
コラム アジア IT 事情/アメリカ IT まわりの話題/インターネット生活向上委員会/情報技術と教育/20世紀の名著名論/日本の IT 事情

会員募集中!!

ITの最新情報, 研究発表の場の提供を通じて,
あなたのお役に立ちます。

詳しくはWebサイト <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

申込/照会先 社団法人 情報処理学会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
Tel:(03)3518-8370(会員サービス部門) E-mail:mem@ipsj.or.jp



複写される方に

〔R〕 <学術著作権協会依頼>

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接当学会へご連絡ください。

〒170-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル

学術著作権協会

E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

ただし、アメリカ合衆国における複写については、右記の In the USA に記載の所へご照会ください。

Notice about Photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization, which has been delegated for copyright by clearance by the copyright owner of this publication.

Except in the USA

Japan Academic Association for Copyright

Clearance (JAACC)

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo

107-0052, Japan

E-mail: naka-atsu@mju.biglobe.ne.jp

Tel: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

In the USA

Copyright Clearance Center, Inc. (CCC)

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, USA

Phone: (978)750-8400 Fax: (978)750-4744

<http://www.copyright.com>

掲載広告カタログ・資料請求用紙

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、必要事項をご記入の上、E-mail:sei@ss-com.co.jp または Fax.03-3368-1519 へご請求ください。

「情報処理」 月号をみて

広告主名	製品名	希望項目 [※]	その他要望事項

※希望項目：A 購入希望, B 担当者から連絡・訪問希望, C カタログ希望

フリガナ
お名前

勤務先

所属部署

所在地

(〒 -)

TEL ()

-

FAX ()

-

ご専門の分野

広告のお問合せ・お申込みは・・・広告総代理店（株）精機通信社へ

発行 社団法人 情報処理学会
 発行部数 30,000 部
 体裁 A4 判
 発行日 毎当月 15 日
 申込締切 前月 10 日
 原稿締切 前月 20 日
 広告原稿 オフセット用ポジフィルム
 原稿寸法 1 頁 天地 260mm × 左右 180mm
 1/2 頁 天地 125mm × 左右 180mm
 雑誌寸法 天地 297mm × 左右 210mm

■広告料金表

掲載場所	4 色	2 色	1 色
表 2	346,500 円 (税抜 330,000 円)	—	—
表 3	288,750 円 (税抜 275,000 円)	—	—
表 4	404,250 円 (税抜 385,000 円)	—	—
表 2 対向	315,000 円 (税抜 300,000 円)	—	—
表 3 対向	278,250 円 (税抜 265,000 円)	199,500 円 (税抜 190,000 円)	162,750 円 (税抜 155,000 円)
前付 1 頁	262,500 円 (税抜 250,000 円)	173,250 円 (税抜 165,000 円)	141,750 円 (税抜 135,000 円)
前付 1/2 頁	—	—	84,000 円 (税抜 80,000 円)
前付最終	—	—	155,400 円 (税抜 148,000 円)
目次前	—	—	155,400 円 (税抜 148,000 円)
差込 (A4 判 70.5kg 未満 1 枚)	288,750 円 (税抜 275,000 円)		
差込 (A4 判 70.5kg ~ 86.5kg 1 枚)	367,500 円 (税抜 350,000 円)		

* 上記料金はポジフィルム納入による料金です。

* 版下・製版等が必要な場合には別途実費申し受けます。

* 断切広告は上記料金の 10% 増です。ただし、表 4 は不可。

お問合せ・お申込みは

広告総代理店

(株) 精機通信社 Tel.03-3367-0571

〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-16-13

Fax.03-3368-1519 E-mail: sei@ss-com.co.jp